デザイン都市「福岡」を創る一連の活動

特定非営利活動法人　FUKUOKA デザインリーグ

福岡県福岡市南区大橋１-３-２７

デザイン都市「福岡」を創る一連の活動

（1）活動の背景

1990 年代、地域のデザイン活動の拠点としてのデザインセンターを作る動きが表面化し、福岡市でも検討を行いました。しかし、いわゆる「箱物行政」という批判もあり、ハードよりもソフトとしてのデザイン活動を重視すべきという方向になりました。福岡には、全国で初の国立のデザイン大学「九州芸術工科大学（現九州大学）」があり、当時、九州芸術工科大学の岡助教授を中心として、福岡のデザイン団体が一堂に会して、各団体が個別に動いていたデザイン活動を集約して、「デザインリーグ」として一本化する方向でまとまり、活動を開始しました。

（2）全国でも極めてユニークな活動

全国においても、デザイン団体が一堂に会し、ある特定の目的に向かって活動するのは、極めて特異な事例です。約２５年の活動の歴史を経て、類似団体が仙台、札幌、富山などにできるなど、大きな影響力を与えました。そのユニークな活動に対して 2002 年にグッドデザイン賞を受賞しています。

また、「デザイン都市」をハードではなく、生活者や学生、障がい者などの視点、さらに都市計画のもならず、建築、グラフィック、プロダクトといった多角的視点から捉え、横断的なチームとして取り組んでいることも大きな特徴です。

（3）活動領域

立ち上げ当初は、期間限定のイベントや様々な催事を中心として活動しましたが、その後、年間を通しての活動にシフトし、活動を充実させています。基本的には、営利目的の個人、法人などからの仕事は受注せず、社会的デザイン活動や、行政、自治体などからの受託事業などを行っています。主に自主事業に関しては、九州大学を始めとする福岡市内のデザイン系大学や専門学校などに呼びかけて、ボランテイアやインターンとともに事業を実施しています。また、最近の活動では、障がい者の授産施設における「商品開発」など障がい者の自立を手助けする活動も増えてきました。

（4）組織

自治体などからの受託事業は、事務局から NPO の会員すべてに情報を開示して、参加者を募り、プロジェクトチームを編成し、作業にあたります。そのなかで、事務局活動費、自主活動費を捻出し、NPO 本来の事業に補填しています。

毎月実施される運営会議で、プロジェクトの管理をおこない、年１回の総会で、予算、人事などを決定しています。

事務局は、常勤が１名、九州大学の付属施設内に事務所を構えています。

活動例：デザインスクールキャラバン（まちづくりや地域をテーマとした小学生対象デザインワークショップ）

デザイン都市実現のためには、デザイン、建築、都市計画のプロの存在のみならず、一般市民の理解、特に次世代を担う小学生の時から「デザイン」の重要性や可能性を知ってもらうことが重要である、という認識のもとにはじめた事業です。
これまで小学校高学年、中学校、高校などで、この事業を行ってきましたが、近年は小学校の高学年に集約されています。実施主体は、NPO FUKUOKA デザインリーグに所属する、建築家協会、グラフィックデザイナーズ協会など団体から有志を小学校へ派遣して実施しています。

2015 年事例
デザインスクールキャラバン 2015in 南当仁小学校（2015 年 11 月 30 日）

講師：DSA 九州支部／JAGDA 福岡地区／JCD 九州支部／JIA 九州支部福岡会／SDA 九州地区　等　団体会員 34 名
テーマ：一度行きたい！みらいのまち―南当仁共和国―

５年生を対象に、南当仁小学校校区を一つの都市にたとえ、コンパクトシティの考え方を講義し、その後、プロのデザイナーを交えて、具体的な都市をデザインするワークショップ形式の授業です。エネルギーや都市交通、居住の問題などを考えながら、プロのデザイナーと話をしながら一つの都市にまとめ上げる作業です。完成した模型は、小学校で行われる造形展示会で展示されました。
これらの一連のデザインスクールキャラバンの活動に対して、2010 年、第 41 回博報賞（教育活性化部門）を受賞しています。

活動例：福岡景観ガイドツアー（一般市民を対象とした都市・地域の魅力を再発見するツアー）

福岡市内の歴史的景観、建築などをNPOのメンバーである建築の専門家が解説をつけながら歩いて廻るツアーで、一般市民が参加します。
2015年の事例
６月：赤坂山エリアツアー　　参加者２８名　１０月：唐人町・今川エリア　参加者１９名　　１１月：西新エリア　参加者33名

活動例：バリアフリーマップ調査（障がい者も安心して生活できる都心めざしたマップづくり）

福岡のまちのユニバーサルデザイン化を進める事業で、様々な障がいをもつ市民が安心して都心部を行動できるように、毎年、現地調査をおこない、バリアフリーマップの更新を行っています。
主に、車椅子トイレ、エレベーター、駐車場の有無、ホテルのハンデイキャップルームの有無などの情報を点検し、最新の情報に更新する事業です。

活動例：ユニバーサル都市福岡デザインワークショップ（都市に関する専門的テーマの高度なデザインワークショップ）

NPO メンバーのデザイン専門家、九州大学芸術工学院学生、教員、一般市民が参加する、極めて高度なデザイン実践ワークショップです。
２−３日間という短い時間に、福岡市の具体的な都市問題をテーマとして、その問題発見、分析、解決手段、プレゼンテーションまで一貫した作業をチームとして手がけるワークショップです。

2015 年の事例
テーマとして「福岡発信の食の「ユニバーサルデザイン」を取り上げ、福岡市の名物である「屋台」を検証し、特に海外からの来訪者に向けて、どのような問題があり、それをどのようにデザインという視点から解決するかに取り組みました。
海外の留学生、屋台組合の方々、また商業施設の担当者、観光の専門家、九州大学の教官などが参加したユニークな国際ワークショップとなり、次世代のデザイナーを育成する極めて有意義な事業の一つです。

福岡県西方沖地震から学ぶプロジェクト（震災をテーマとし、都市防災の観点からのデザインの役割を問う提案）

このプロジェクトは 2005 年３月に発生した福岡市西方沖を震源地とする震災を機に、デザイナーの視点からどのような、この震災に取り組むか「震災に備えるまちの仕組み」を住民、行政、専門家を交えて考え、まとめたものです。
都市レベルでの「防災モール計画」、地区レベルでの「防災サイン計画」「避難マップ」「災害弱者対応トイレ」「住環境−簡易パーテイション」などとして提言がまとめられています。
その後、この提言は 2006 年３月に東京デザインセンターで行われた「地震とデザイン」のシンポジュウムで発表されました。

「創造的デザイン都市」づくり戦略の提案（デザインがまちをパワーアップさせる戦略）

平成 20 年度　デザイン都市に関する調査・検討委託業務
福岡市から NPO　FUKUOKA デザインリーグに委託された調査業務です。
福岡市からの委託を受けて、NPO メンバー、外部専門家から構成されるデザイン都市研究会を発足させ、討議を重ね、公開講座、ワークショップを重ね、提案をまとめています。